

なまむぎはちまんまえいせき
生麦八幡前遺跡

横浜市鶴見区No.112

調査期間 2016年12月16日～
2017年10月15日

所在地 横浜市鶴見区鶴見・岸谷町

時代 近代、近世、奈良・平安、
弥生～古墳、縄文

調査原因 横浜市鶴見一丁目地区防災公園街区
整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

遺跡位置 横浜市鶴見区東部、鶴見川最下流の
右岸の台地上、京浜急行花月園前駅
の西側0.2kmに位置する。



主な調査成果

本遺跡は、大正～戦前にかけて賑わった旧花月園遊園地跡と、遊園地閉園後に造られた花月園競輪場があった台地上に所在します。当時の遊園地の建物等で壊されていた部分が多いものの、台地際で弥生時代～古墳時代の集落と縄文時代集落が発見されました。

縄文時代のJ2号竪穴住居では、床面直上から釣手土器、倒置深鉢等の縄文土器にくわえ、打製石斧が集中して出土しました。また、床面から浮いた状態で貝層が発見されています。

貝はイボキサゴを主体にハイガイ・マガキ等が含まれます。貝層が発見された竪穴住居は、他に2軒確認されています。周辺地域での調査事例が少ない中、本遺跡の調査によって鶴見川流域に広がる台地上に形成された縄文時代の集落にくわえ弥生時代の住居も調査され、長期にわたる当時の人々の生活の一端を知ることができます。

現在は、報告書刊行に向けて出土品整理作業を行っています。



調査区西端 調査完了状況



J2号住居 遺物出土状況（縄文時代）



J10号住居 遺物出土状況（縄文時代）



Y1号住居（弥生時代）